

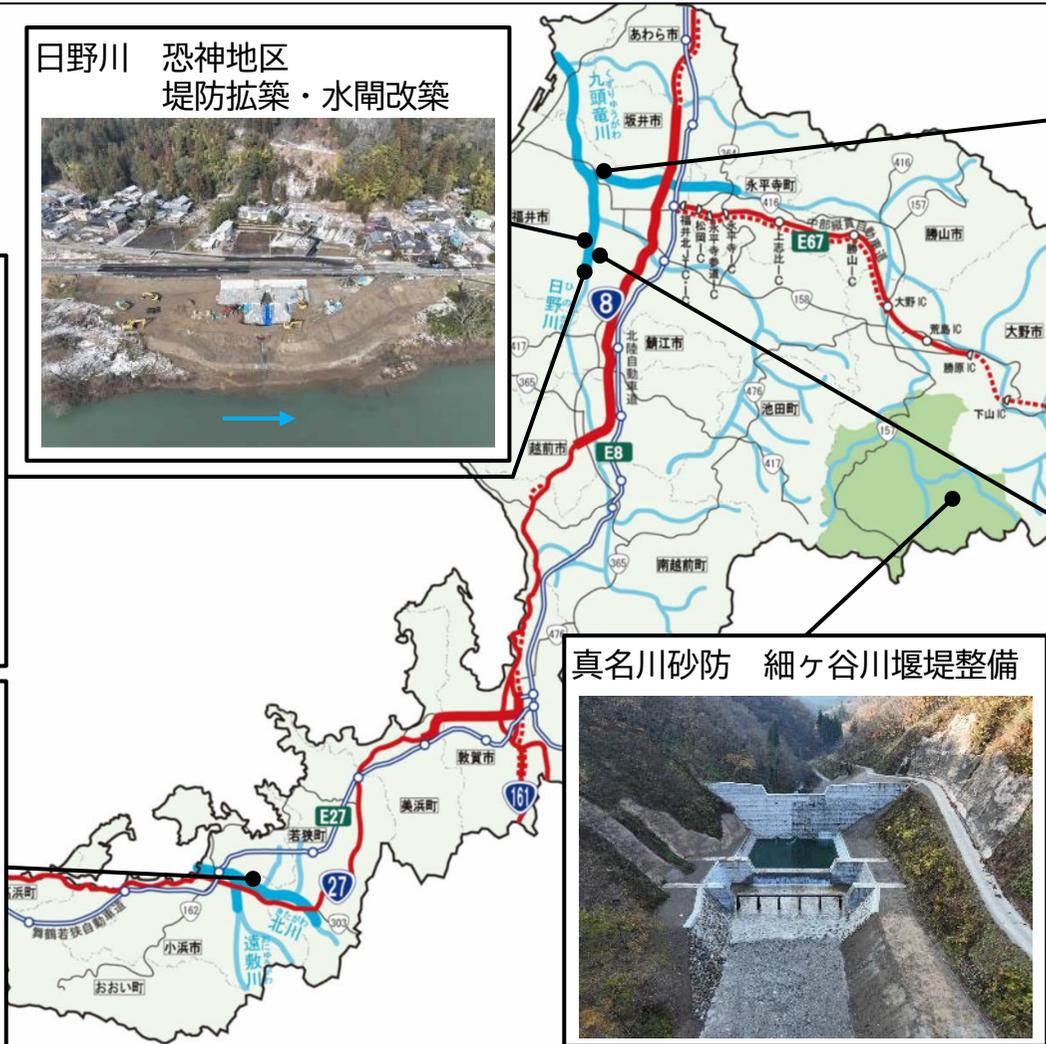
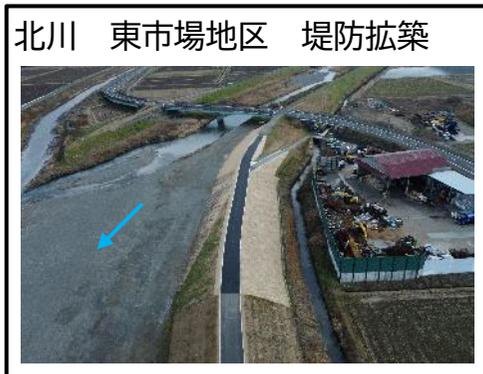
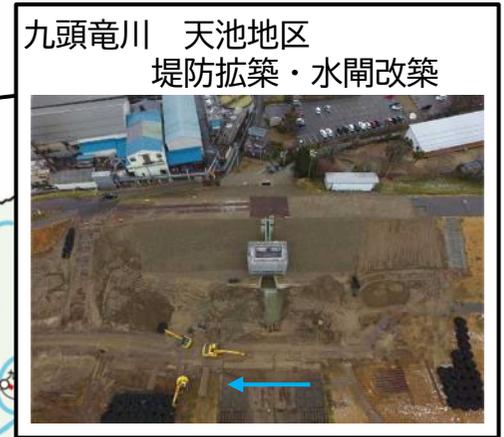
各機関の取組事例紹介について

令和7年3月19日

第10回 九頭竜川・北川流域治水協議会
第7回 福井県二級水系流域治水協議会

河道掘削・堤防拡築・堤防強化、砂防堰堤等の整備
(九頭竜川・北川の直轄管理区間)

- 令和6年度は、九頭竜川水系日野川の恐神地区、北川水系北川の東市場地区等で、引き続き堤防拡築等を実施し治水安全度の向上を図っている。
- また、真名川砂防事業として、砂防堰堤等の整備を行っており、令和6年度に事業が完了します。



ふくい県域タイムラインによる防災力向上 (県内全域)

- 災害時に**関係機関が危機感を共有する体制を構築**し、災害に対する危機感共有、早期の準備や避難指示等の**迅速な意思決定につなげる**ため、福井県、福井地方气象台、県内全17市町、報道機関等の流域関係者と連携し、令和5年度出水期から「ふくい県域タイムライン」を試行運用している。
- 令和6年度は、出水が見込まれる場合の情報共有を目的に開催する**WEB危機感共有会議11回(5出水)**、情報共有プラットフォームによる**情報提供9出水**、関係者が協働でタイムラインの作成や防災対応の意見交換を行う**策定部会3回**、防災気象情報に関する**勉強会5回**を開催し、**連携の強化や防災対応の向上**を図った。

● WEB危機感共有会議

関係機関が防災気象情報、危機感を共有し災害対応に活用



● 策定部会

タイムラインの作成



防災対応に関する意見交換



● 情報共有プラットフォーム

- ・ 状況把握を迅速化するために気象情報や水位、河川カメラの情報を集約
- ・ メッセージ機能による最新の情報提供



● 勉強会

対面開催 (策定部会と合同)



WEB開催



内外水統合の水害リスクマップの作成 (九頭竜川・北川の直轄管理区間)

- 福井河川国道事務所では、**流域治水の取り組みを推進**するため、土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択に活用出来るよう、九頭竜川、北川の直轄管理区間において、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した浸水想定図（「**多段階の浸水想定図**」）と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「**水害リスクマップ**」を作成、公表している。
- これに加えて、**主要河川以外の支川や内水氾濫による浸水リスクを示す**内外水統合型のリスクマップを作成することとしており、令和7年度には、**現況河道条件における九頭竜川・北川の内外水統合型のリスクマップを公表**する予定。

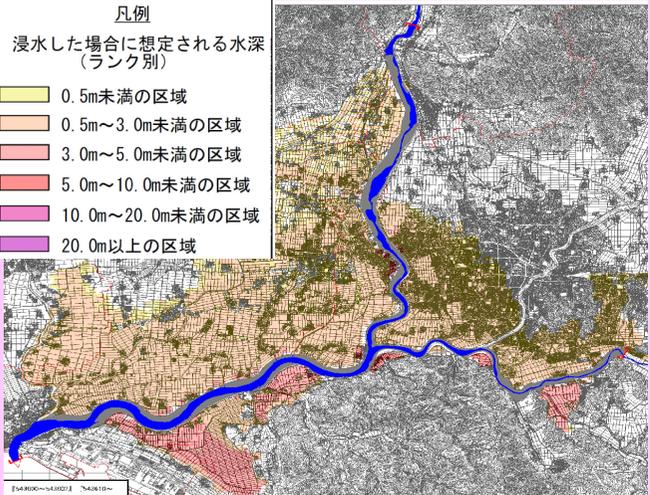
【多段階の浸水想定図（外水氾濫のみ）】

- 想定最大規模、計画規模に加え、高頻度から中低頻度で発生する降雨規模毎（1/30、1/50、1/100、1/150）に作成した浸水想定図。

凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域



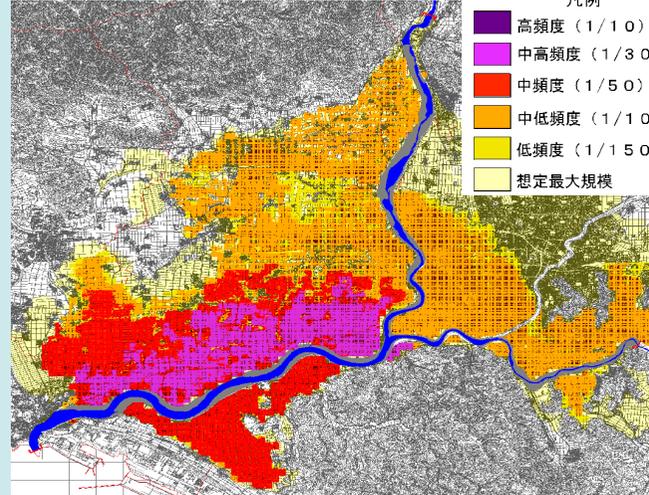
現況河道において浸水が想定される範囲を表示（1/150）

【水害リスクマップ（外水氾濫のみ）】

- 多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m以上、0.5m以上（床上浸水）、3.0m以上（1階居室浸水））に重ね合わせて作成した図面。

凡例

- 高頻度（1/10）
- 中高頻度（1/30）
- 中頻度（1/50）
- 中低頻度（1/100）
- 低頻度（1/150）
- 想定最大規模



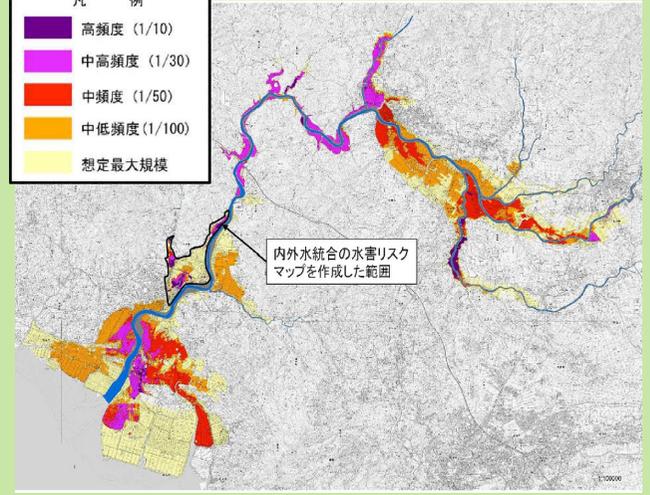
浸水深50cm（床上浸水相当）以上の浸水が想定される範囲を表示

【内外水統合型水害リスクマップ】

- その他河川や下水道からの氾濫による浸水を内外水一体型で表現した図面。

凡例

- 高頻度（1/10）
- 中高頻度（1/30）
- 中頻度（1/50）
- 中低頻度（1/100）
- 想定最大規模



内外水統合の水害リスクマップを作成した範囲

内外水統合の水害リスクマップ図【浸水深50cm以上】
(イメージ)

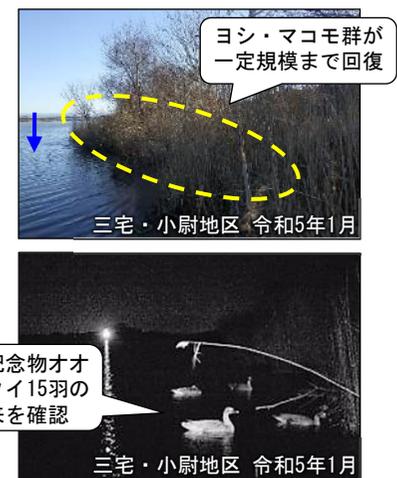
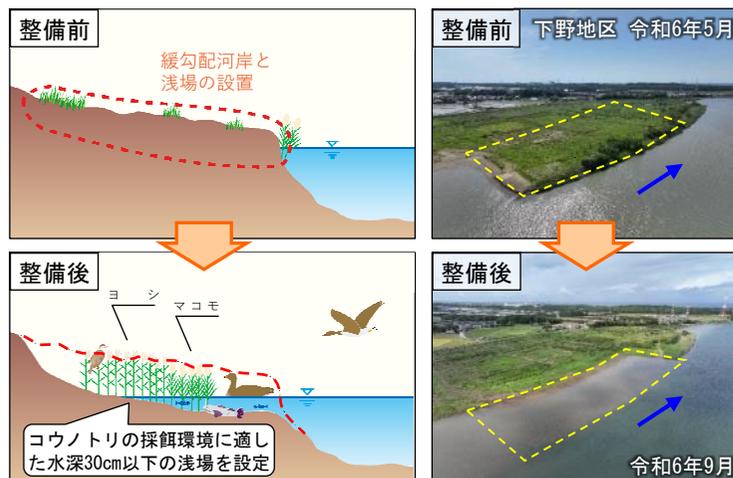
自然環境の保全・復元などの自然再生、自然環境が有する多様な機能活用の取組み
(九頭竜川・北川の直轄管理区間)

- 九頭竜川では、多様な生物の生息・生育・繁殖環境を保全・再生することを目指し、自然再生計画に基づき、水際環境再生や砂礫河原再生を実施。
- 九頭竜川・北川では、自然環境が有する多様な機能活用の取組みにおける環境学習の一環として、地元小学生等による水生生物による水質の簡易調査を実施。

九頭竜川自然再生事業位置図



水際環境再生：ヨシ・マコモ群落の拡大と水際部を利用する多様な生物の生息・生育・繁殖環境形成のため、令和6年度は九頭竜川の下野地区で水際部の緩勾配化と浅場の整備を実施。これまでの整備箇所ではヨシ・マコモ群落の回復やオオヒシクイの飛来を確認。



河川環境学習（水生生物による水質の簡易調査）：調査では、福井高専の嘱託教員に水生生物の解説を行って頂き、参加者に身近な河川の水質や環境について学習頂いた。調査の結果、九頭竜川・北川は「きれいな水」（4段階中最上位）判定となった。



【参加者の感想】
 ・最初は小さい虫を見つけることが出来なかったが、慣れてくると生き物を沢山捕まえることができた。
 ・川遊びなど子供の遊びも変化していく中で貴重な体験ができた。身近な環境を確認することで環境に対する子供の意識を変えて行けたら良いと感じた。継続的な取組を希望する。（保護者意見）

北 川：R6. 8. 7実施 参加者17名
 九頭竜川：R6. 8. 9実施 参加者10名

足羽川ダム建設事業

○ 令和6年度はダム本体、水海川導水トンネル、水海川分水施設、付替道路の工事を実施。

ダム建設



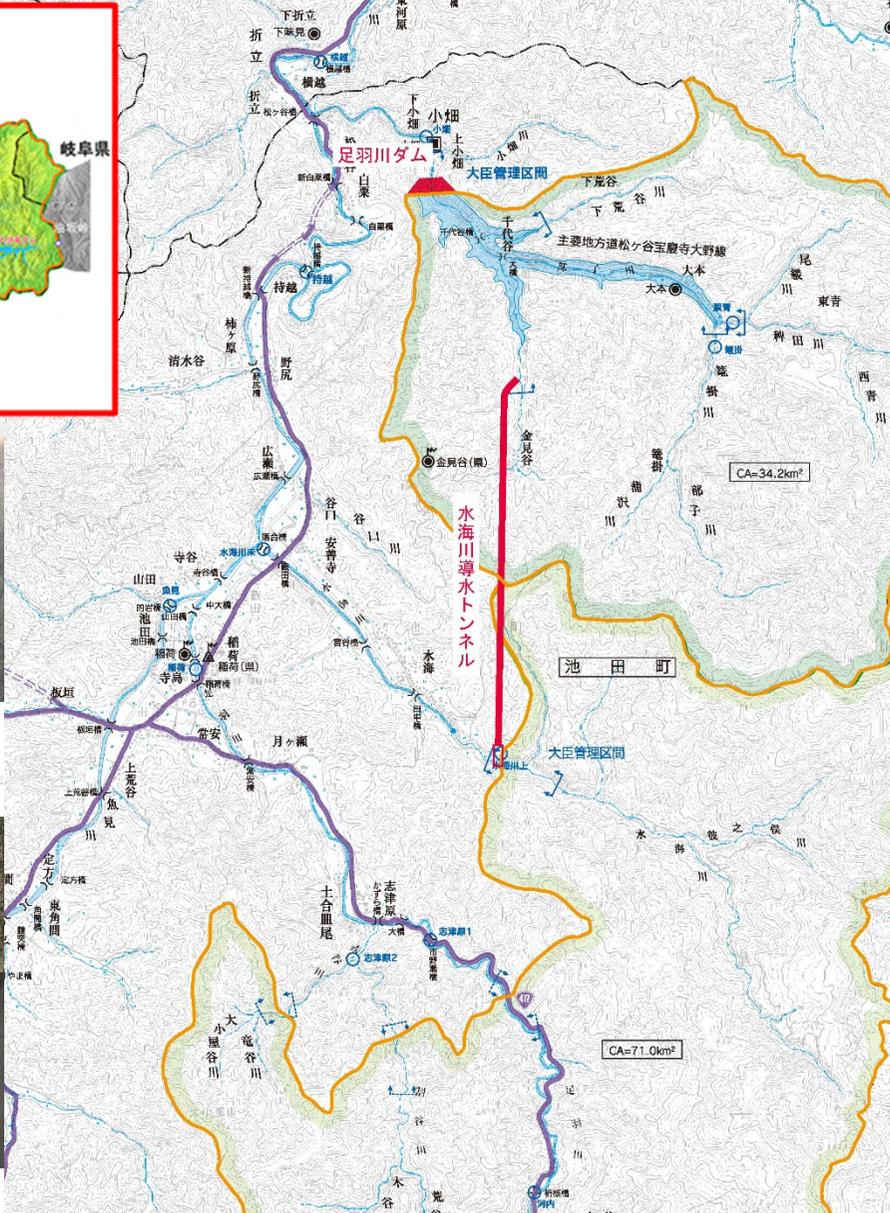
ダム本体
(R7.1撮影)



(R7.1撮影)



水海川導水トンネル



ダム完成イメージ



付替県道 14号橋
(R6.11撮影)



5
水海川分水施設
(R7.1撮影)

治山事業及び森林整備事業

- 今後の気候変動を見据えた森林の土砂流出防止機能・洪水緩和機能の維持・向上のため、国有林内で本数調整伐（間伐）などの森林整備や、山地災害箇所において、治山事業を行い林地の復旧を行っています。

池河内国有林（小浜市）
本数調整伐（間伐）・丸太筋工



河内国有林（若狭町）
溪間工



被災箇所



治山堰堤（完了）¹

小中学校等と連携した防災に関する出前講座の取組み

- 防災教育・防災対策への知識向上を目的として、児童に対してお天気教室の実施。
- 要配慮者等関係事業所、NEXCO等への勉強会を実施。

■ お天気フェア

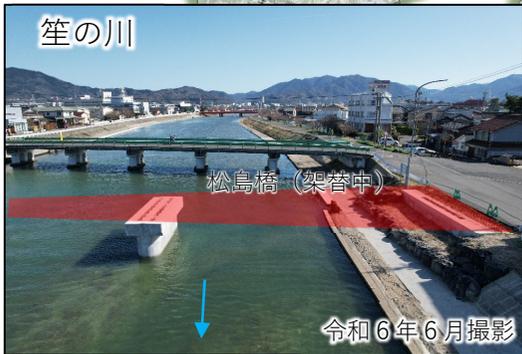


■ 要介護者施設での出前講座

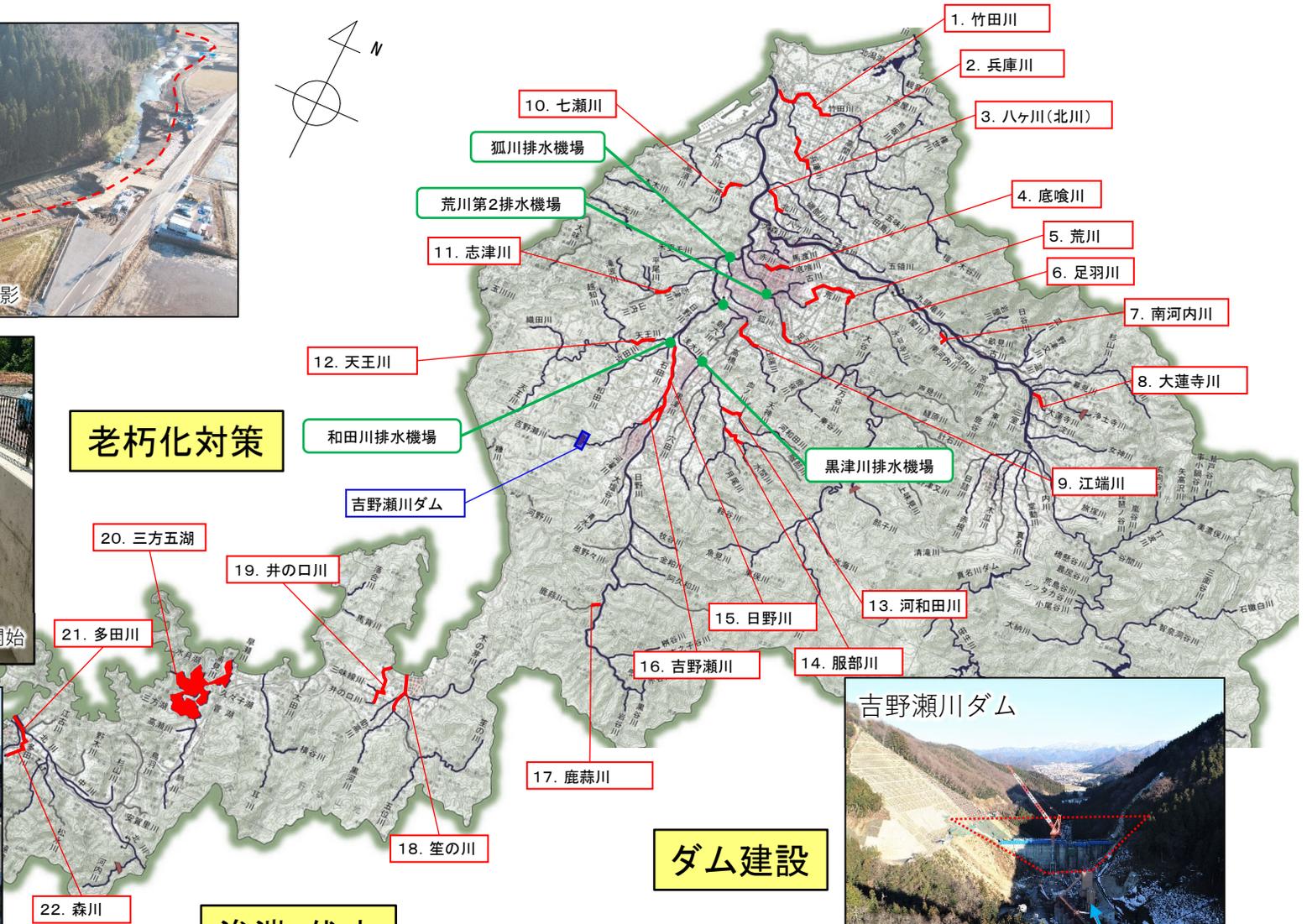


令和6年度は、
22河川の河川改修と吉野瀬川ダムの建設、排水機場の老朽化対策、92河川の浚渫、伐木を実施

河川改修



老朽化対策



浚渫・伐木

ダム建設



県有施設を活用した雨水浸透施設整備

概要

・場所

武生商工高校(越前市文京1丁目)

・背景

日野川流域における氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策を推進するため、
 県有施設改修時における雨水貯留浸透施設に関する方針に基づき、施設(武生商工高校)の建設に合わせて雨水貯留浸透施設の整備を実施。

・整備内容

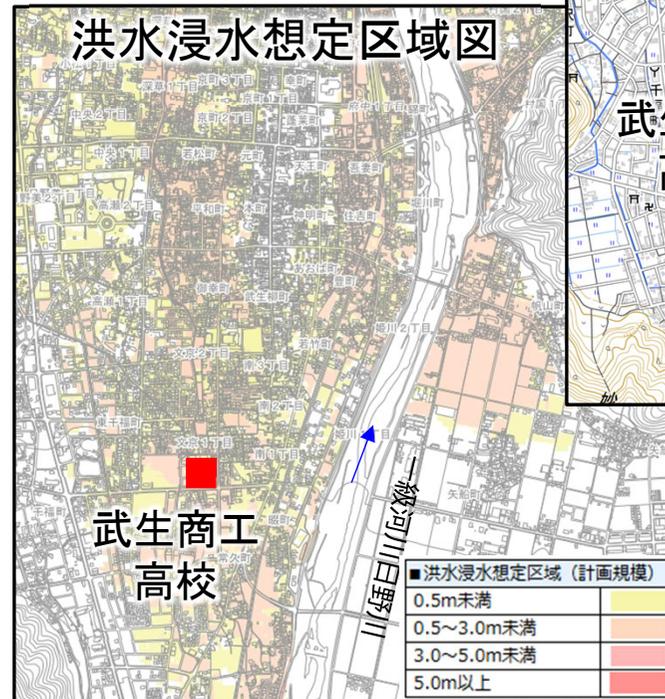
透水性舗装 :A=1, 200m²

・今年度の取組み

令和5年9月: 県有施設改修時における雨水貯留浸透施設に関する方針を通知

令和6年7月: 施設管理者(主管課)等
 関係者協議
 透水性舗装の施工合意

令和7年2月: 武生商工高校整備完了



県有施設を活用した雨水浸透施設整備

概要

・場所

越前警察署今立分庁舎(越前市粟田部町)

・背景

鞍谷川流域における氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策を推進するため、
県有施設改修時における雨水貯留浸透施設に関する方針に基づき、施設(越前警察署今立分庁舎)の建設に合わせて雨水貯留浸透施設の整備を実施。

・整備内容

透水性舗装 : A=550m²

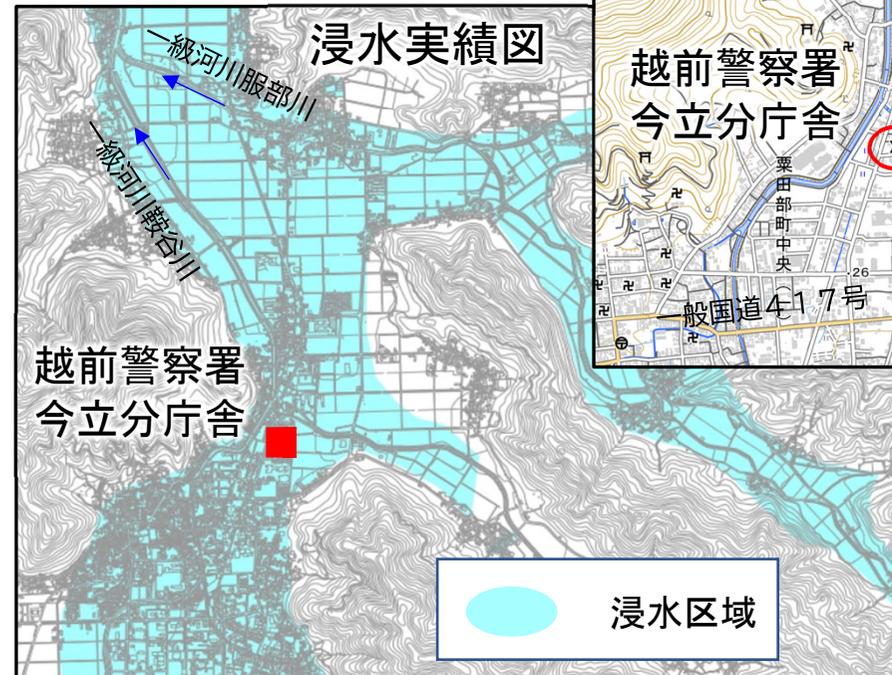
・今年度の取組み

令和5年9月: 県有施設改修時における雨水貯留浸透施設に関する方針を通知

令和6年7月: 施設管理者(主管課)等
関係者協議

透水性舗装の施工合意

令和7年2月: 越前警察署今立分庁舎整備完了



流域治水ワークショップ

- 民間が主体となり、「流域治水を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やすこと」、「流域治水に対する心理的ハードルを下げること」を目的に開催。河川管理者も流域治水の概要や取組みについて説明
- 企業・市民・行政などあらゆる関係者が参加し、ワークショップを通じて流域治水と防災について楽しみながら学んだ。
- あらゆるところで流域治水の取組みが、当たり前になる社会のきっかけづくりとなった。



みんなでやってみよう！流域治水

水害対策アイデアハック

線状降水帯がいつ・どこで、水害をもたらすのか予測不能
そんな今、市民や企業が若いアイデアで楽しく取り組める水害対策を
グループで話し合いながらアイデアを出し合います。

私たち3人が
キーノートスピーチ
します！

大川はるな氏
フリータレント

丸中孝通氏
福井県河川課

田中謙次
環境文化研究所

みんなのアイデアで、水害から人命と財産を守ろう！

2025年1月29日(水) 18時～20時
会場▶越乃バレー (ふくまちブロック6階)
参加費▶無料
申込▶QRコードからエントリー
主催▶公益財団法人環境文化研究所

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。



ワークショップの状況 (令和7年1月29日開催)

このワークショップは、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。



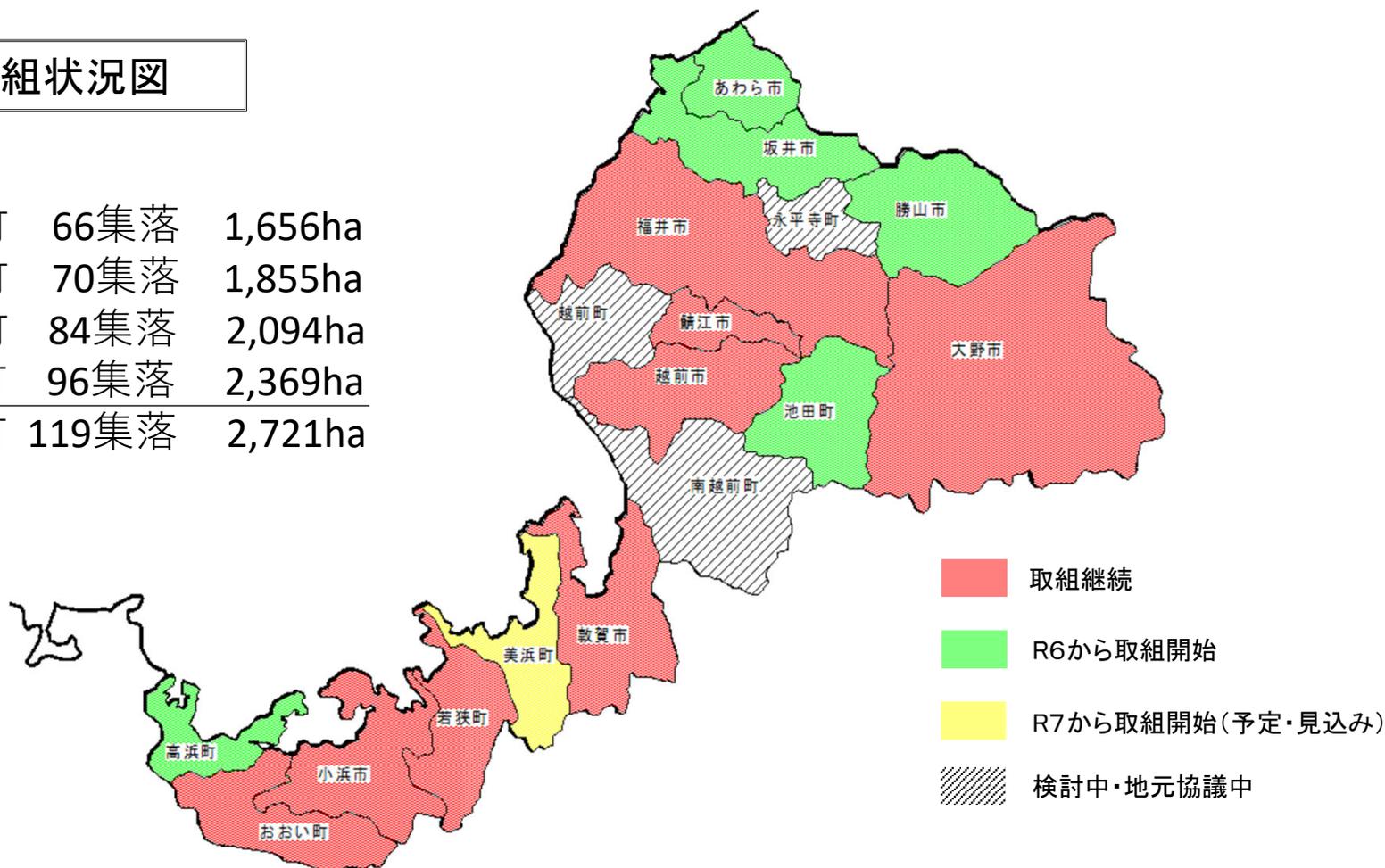
田んぼダム

- ・ 田んぼダムは平成24年度から始まり、令和4年度からは、田んぼダム利活用促進事業を活用して、更なる取組みの拡大を図っており、令和6年度末時点で13市町、2,369ha取組まれる見込み。
- ・ 令和7年度からは、更に1町で新たに田んぼダムの取組みが開始される予定。

田んぼダム取組状況図

【取組面積】

R3末時点	4市町	66集落	1,656ha
R4末時点	6市町	70集落	1,855ha
R5末時点	8市町	84集落	2,094ha
R6末見込	13市町	96集落	2,369ha
R7計画	14市町	119集落	2,721ha



公園貯留、施設内貯留

概要

- ・場所
鹿江公園(福井市木田3丁目)
- ・背景
浸水が頻発しているエリアであり、地元から改善要望が上がっている
- ・貯留量
2,300m³
(調節池1,800m³+水路500m³)
- ・貯留方法
掘込式
- ・事業スケジュール(緊自債活用)
R5 排水路・導水路 完成
R6 調節池工事 10月着工
R7 調節池工事 6月完成予定

位置図

浸水状況

①排水路整備状況

②調節池整備状況

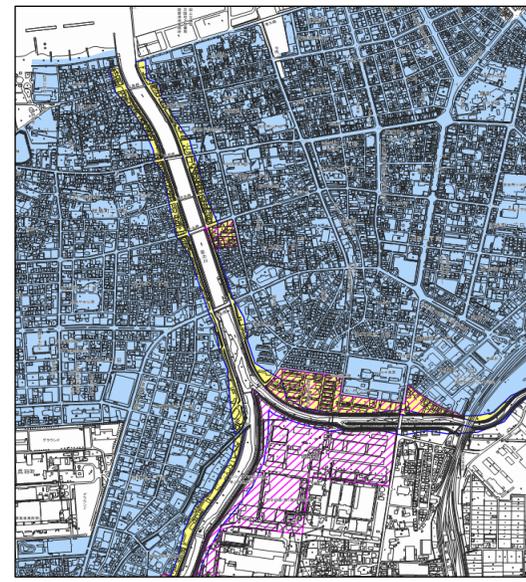
完成イメージ

立地適正化計画に基づく防災指針の策定

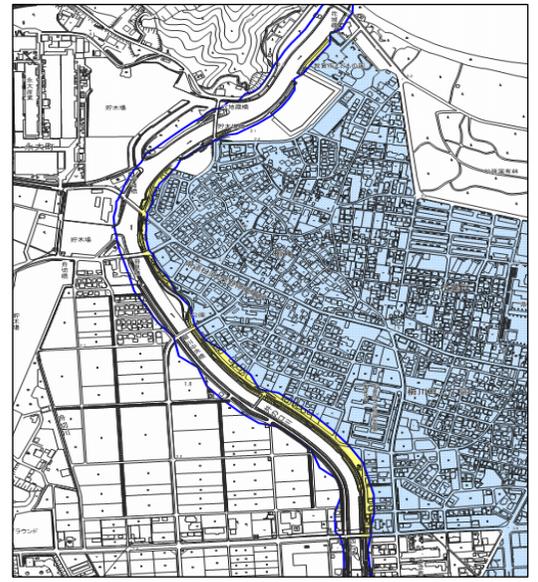
- 概要**
 被害対象を減少させるための対策として、平成31年3月に策定した敦賀市立地適正化計画に「防災指針の設定」を新規に追加する。
- 背景**
 令和2年6月に都市再生特別措置法が一部改正され、立地適正化計画に「防災指針」を記載することが位置づけられた。
- 主な改定内容**
 災害リスクの現状分析を踏まえ、居住誘導区域内における防災上の課題に対する取組方針を設定。
 洪水浸水想定区域の家屋倒壊等氾濫想定区域を居住誘導区域から除外。
- スケジュール**
 令和7年3月末改定・公表(予定)

居住誘導区域の設定見直し図

笹の川水系



井の口川水系



市民説明会



スケジュール	
令和6年 1月	第1回策定委員会
令和6年 7月	第2回策定委員会
令和6年10月	都市計画審議会(中間報告)
令和6年11月	市民説明会
令和6年12月	第3回策定委員会
令和7年 2月	パブリックコメント
令和7年 3月	都市計画審議会
令和7年3月末	改定・公表(予定)

水取排水区浸水対策

概要

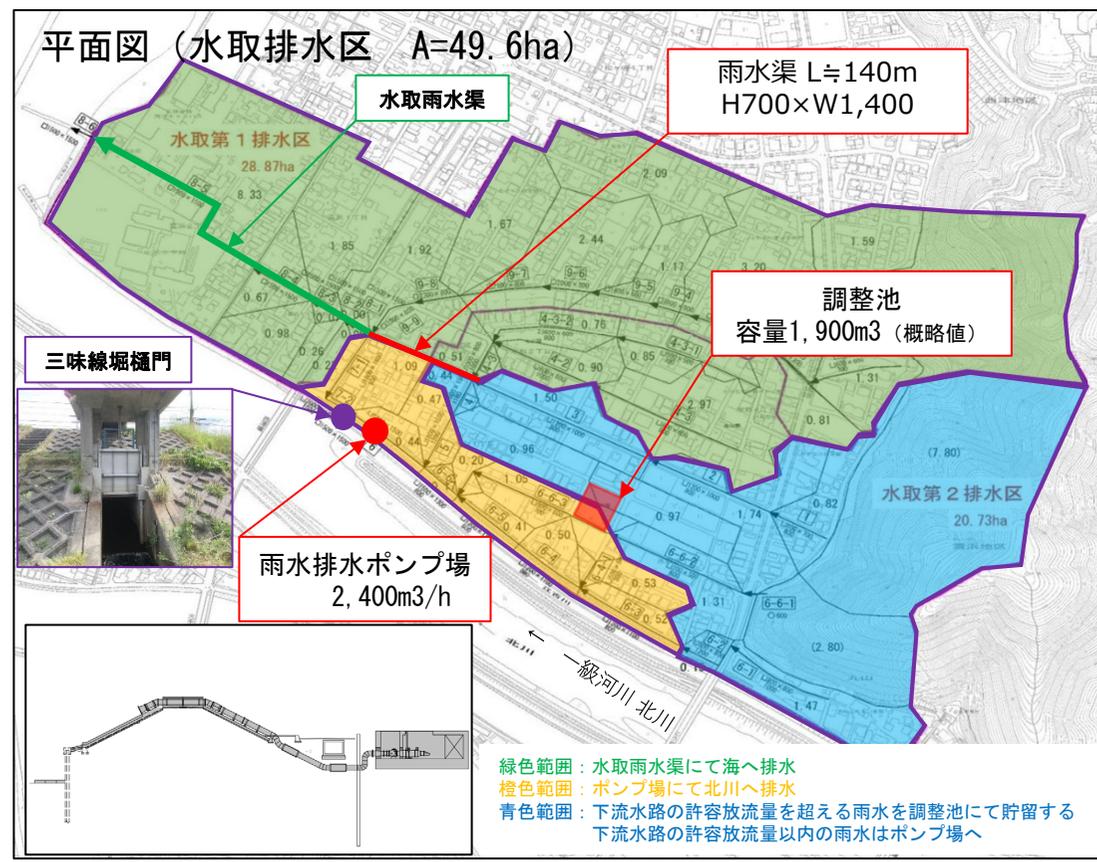
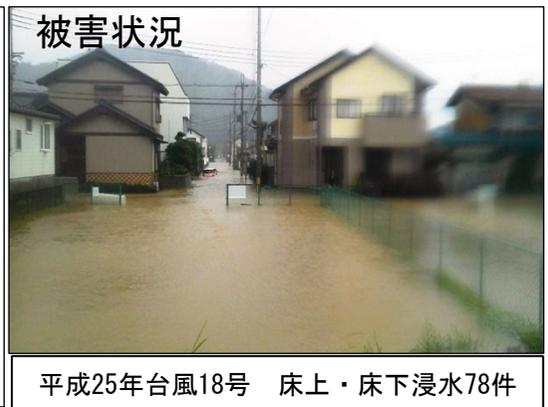
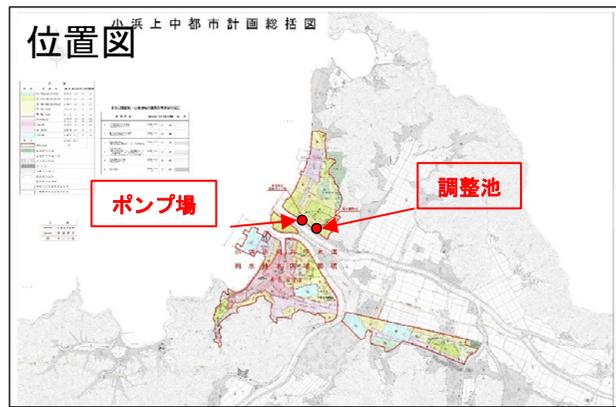
・概要
水取地区で発生している浸水被害を解消させるため、雨水を強制的に一級河川北川に排水させるポンプ場整備および雨水を一時的に貯留させるための調整池整備を行う。

・事業内容
雨水排水ポンプ場および調整池の整備を行う。

ポンプ能力 2,400m³/h
調整池 容量1,900m³ (概略値)
降雨強度 50mm/h

・事業概要
令和5年度 実施設計等業務
令和6年度 雨水渠の整備(一部)
令和7年度～ 雨水渠およびポンプ場整備

・整備効果
ポンプ場稼働することで家屋等への床上・床下浸水が解消され、道路冠水程度までに浸水被害を抑えることができる。



新堀川の改修

概要

・背景

近年の大雨時に、新堀川下流域の市街地(泉町)で浸水被害が頻発している。

・対策

浸水被害の軽減のために、河床掘削(10cmから40cm掘り下げ)と底打ちコンクリート工事を約310mにわたり実施した。さらに、水路改修の下流側約110mの浚渫を行い、流下能力を確保した。

新堀川の改修状況写真



着工前



完成

三谷川河川改修竣工

田んぼダム整備

概要

・背景

平成10年の豪雨にて越水。流域における市街地で浸水被害が発生。

・対策

浸水被害を防止するため、下記の対策を実施。

<三谷川河川改修>

平成25年度より三谷川の現川改修及び調整池の整備、バイパス幹線整備を合わせて実施。

令和6年度に大蓮寺川元禄線放水路(県施工)に接続する大蓮寺バイパス幹線(市施工)が竣工。

<田んぼダムの整備>

大蓮寺川上流域での治水対策として、田んぼの排水柵に調整板を79箇所設置し、田んぼダムを整備。
(実施面積: 13ha)



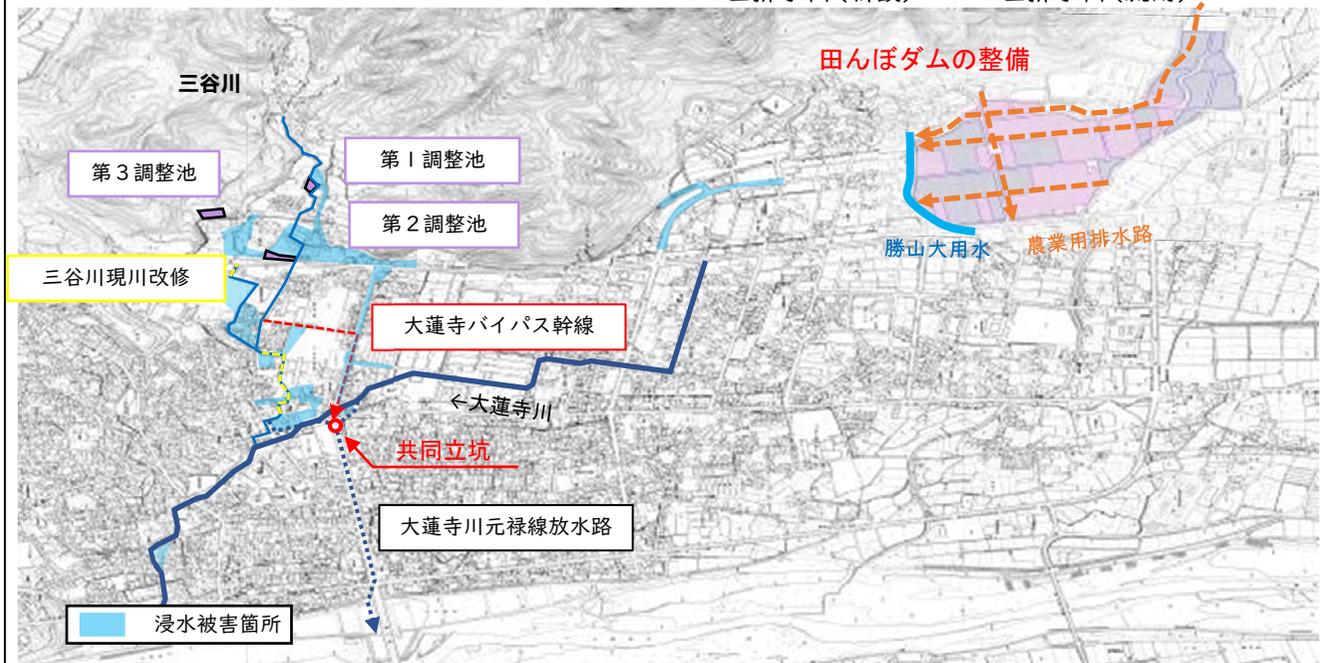
【着手前】



田区排水柵(新設)



田区排水柵(流用)



大蓮寺バイパス幹線整備



推進管施工中

準用河川の治水対策

概要

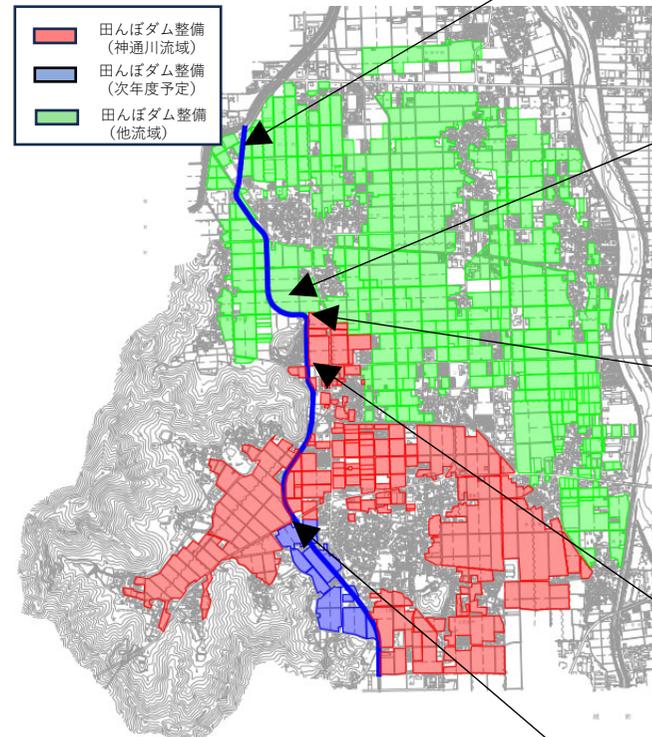
・場所
福井県鯖江市 神通川流域

・背景
準用河川神通川は、平成29年に堤防決壊氾濫をはじめ、令和4・5年に堤防越水氾濫するなど、近年浸水水害が頻発している。
このため、大規模な河川改修等には相当な時間と費用を要することから、まずは流出抑制効果のある田んぼダム整備の治水対策を行ってきた。

田んぼダム整備実績(神通川流域)
212ha / 233ha(約91%)

・令和6年度の実施内容
流域治水対策の方策や進め方の検討
現地測量・調査を実施し、河川全域における現況流下能力の検証を行うなど治水上の課題を整理し、今後の治水対策の進め方を和田川を管理する県と共に検討した。

神通川の河川流域



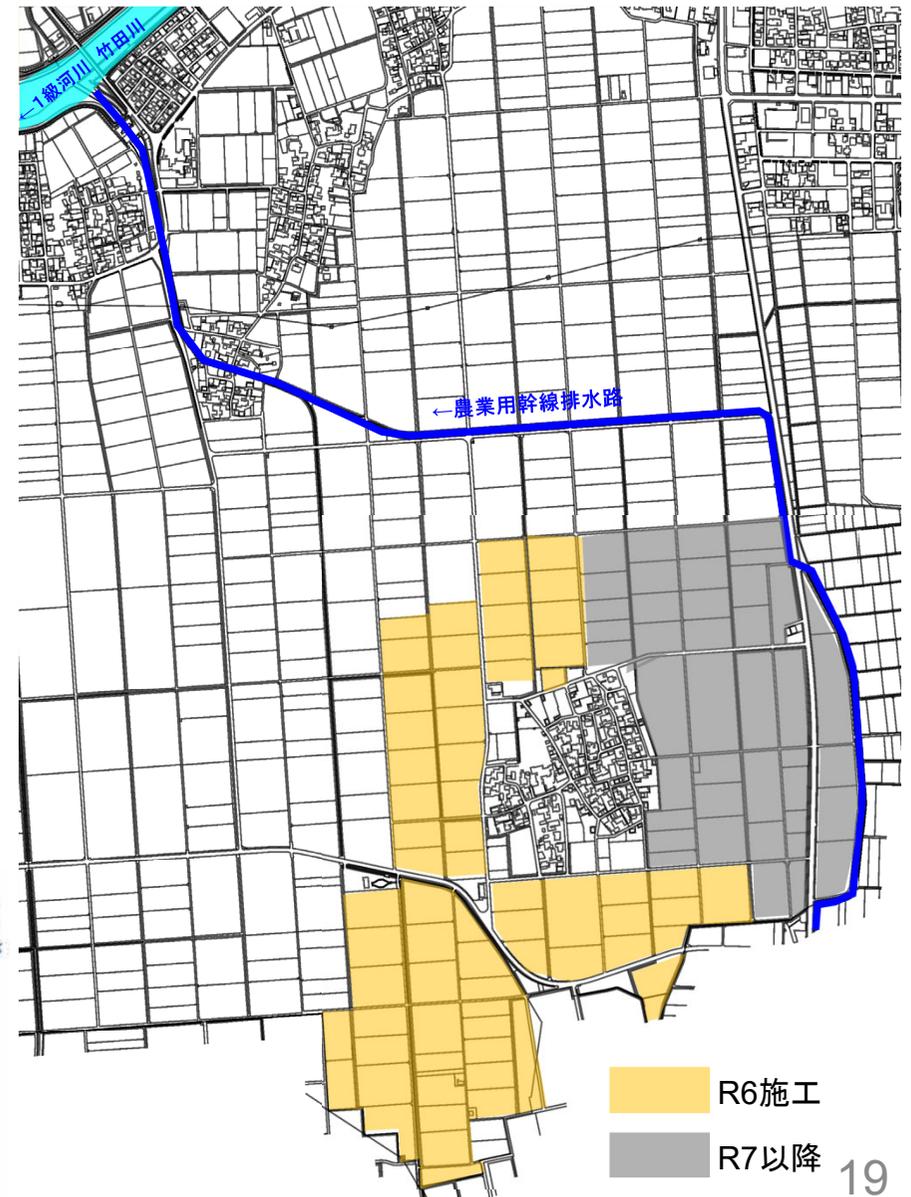
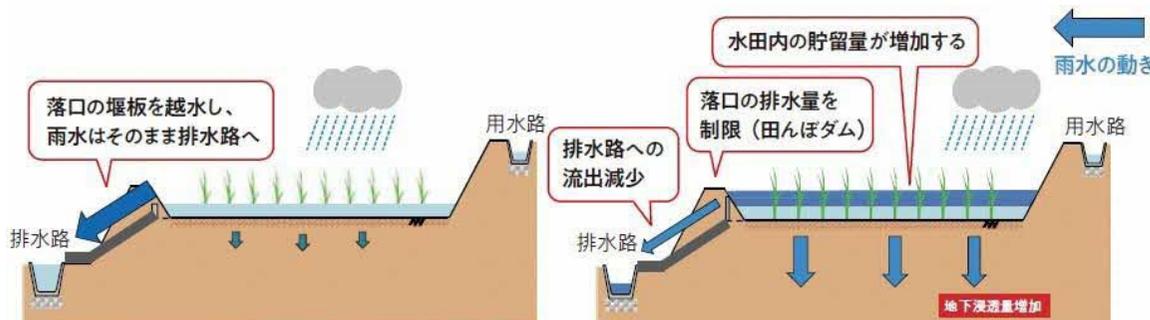
神通川流域治水対策ワーキング検討部会



田んぼダム

概要

- ・場所
あわら市轟木新田
- ・背景
近年の大規模水害の頻発を受け、水田の持つ雨水貯留機能を強化する田んぼダムに着手し流域治水に取り組む。
- ・貯留方法
水田の畦畔を補強し、排水柵に調整板を設置して、一時的に雨水を貯留する。
- ・整備計画
令和6年度施工 40.0ha
令和7年度以降 28.1ha



幹線排水路の整備に合わせた田んぼダム整備の推進

概要

・背景

越前市の味真野地区北部において、平成24年ごろから浸水被害が頻発しており、北町及び味真野土地改良区より、早急改修の要望が出されている状況。

・対策

浸水被害リスク軽減のため、幹線排水路の整備と合わせて地域で田んぼダムを取り組むことにより、流域全体で治水対策に取り組む必要がある。

・現状と計画

<幹線排水路>

○県営農村災害対策整備事業 味真野北部地区

平成28年～29年度 河川協議

令和6年度 事業採択に向けた調整

令和7年度 事業採択、調査測量設計

令和8年度～ 工事着手予定

<田んぼダム>

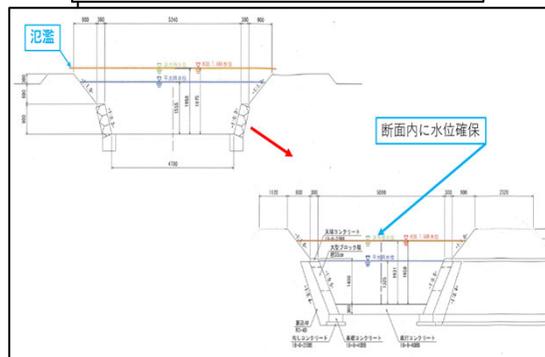
○田んぼダム利活用促進事業 味真野地区

令和6年度 土地改良区正副理事説明

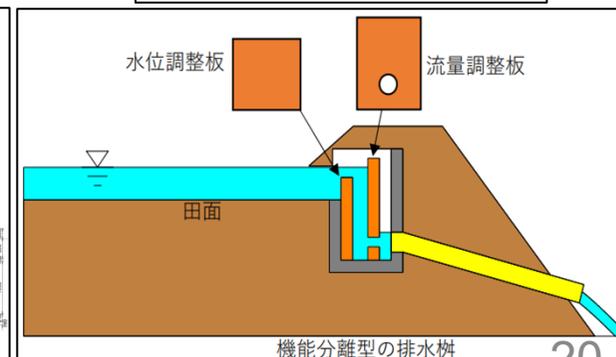
令和7年度予定 18ha(全体計画 約180ha)



幹線排水路整備イメージ



田んぼダム整備イメージ



田んぼダム



概要

・場所

坂井市 丸岡町 はっかごう 八ヶ郷地区

・背景

近年の異常気象による大雨により、一級河川田島川の水位が上昇し、丸岡町中心部で内水被害が頻発している。田島川が流れ込む一級河川竹田川と竹田川に流入する五味川の水位が関連するため、これらの河川への雨水の流出水量を減らせないか検討した。

・内容

田区排水柵に調整板を設置して排水路への流出量を減らすと共に、畦畔を修繕することで貯水能力を高め、面積98ha(計画区域)の田んぼに一時的に雨水を貯留することで河川氾濫のリスクを軽減する。

・事業年度

令和6年度 ~

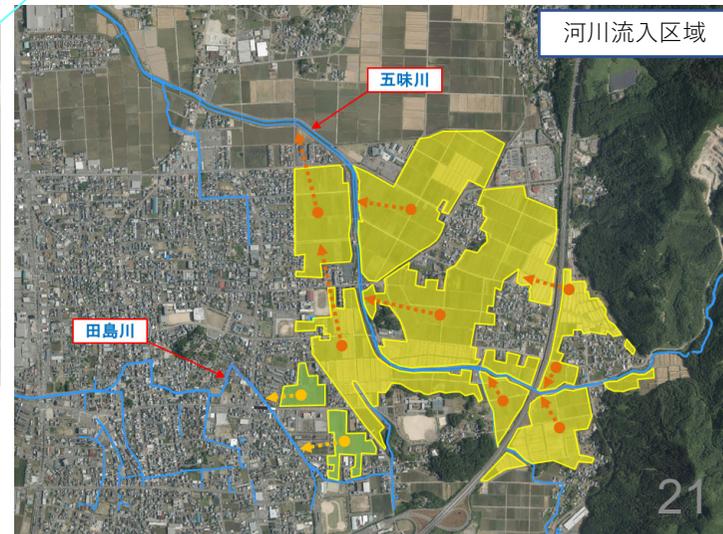
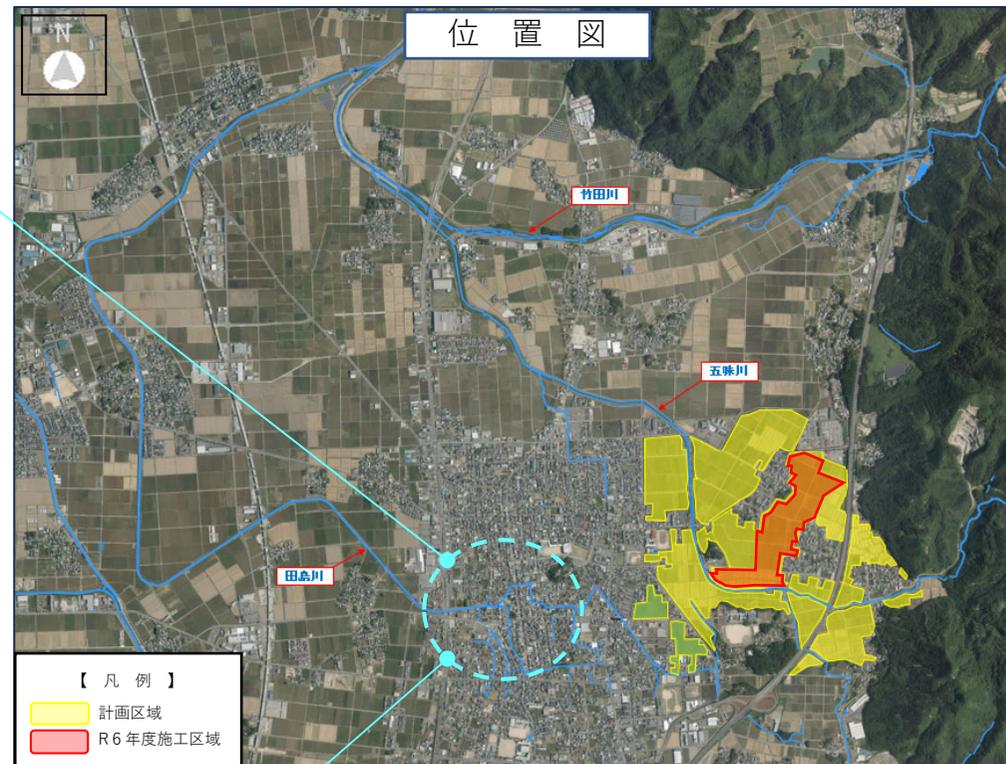
・実績

令和6年度

面積: 19ha

最大貯留水量: $190,000\text{m}^2 \times 0.25\text{m} = 47,500\text{m}^3$

※計画区域 最大貯留水量:
 $980,000\text{m}^2 \times 0.25\text{m} = 245,000\text{m}^3$



ため池の事前放流

概要

- ・場所
島川ため池(永平寺町 松岡島 地係)
- ・目的
ため池の事前放流を行い、空き容量に雨水を一時的に貯留
- ・放流実績
放流前に荒川の水位と入川者の有無を確認し最大貯水量30,000m³のうち、約20,000m³を事前放流
- ・地区との協議
流域治水の観点のみならず、ため池の決壊リスクを低減させることで理解醸成
- ・今後について
 - ①事前放流の目的や効果を示した上で、その必要性について情報共有する
 - ②管理手順等の基準を作成する
 - ③田んぼダムをR8年度工事着手に向け、地元調整を実施

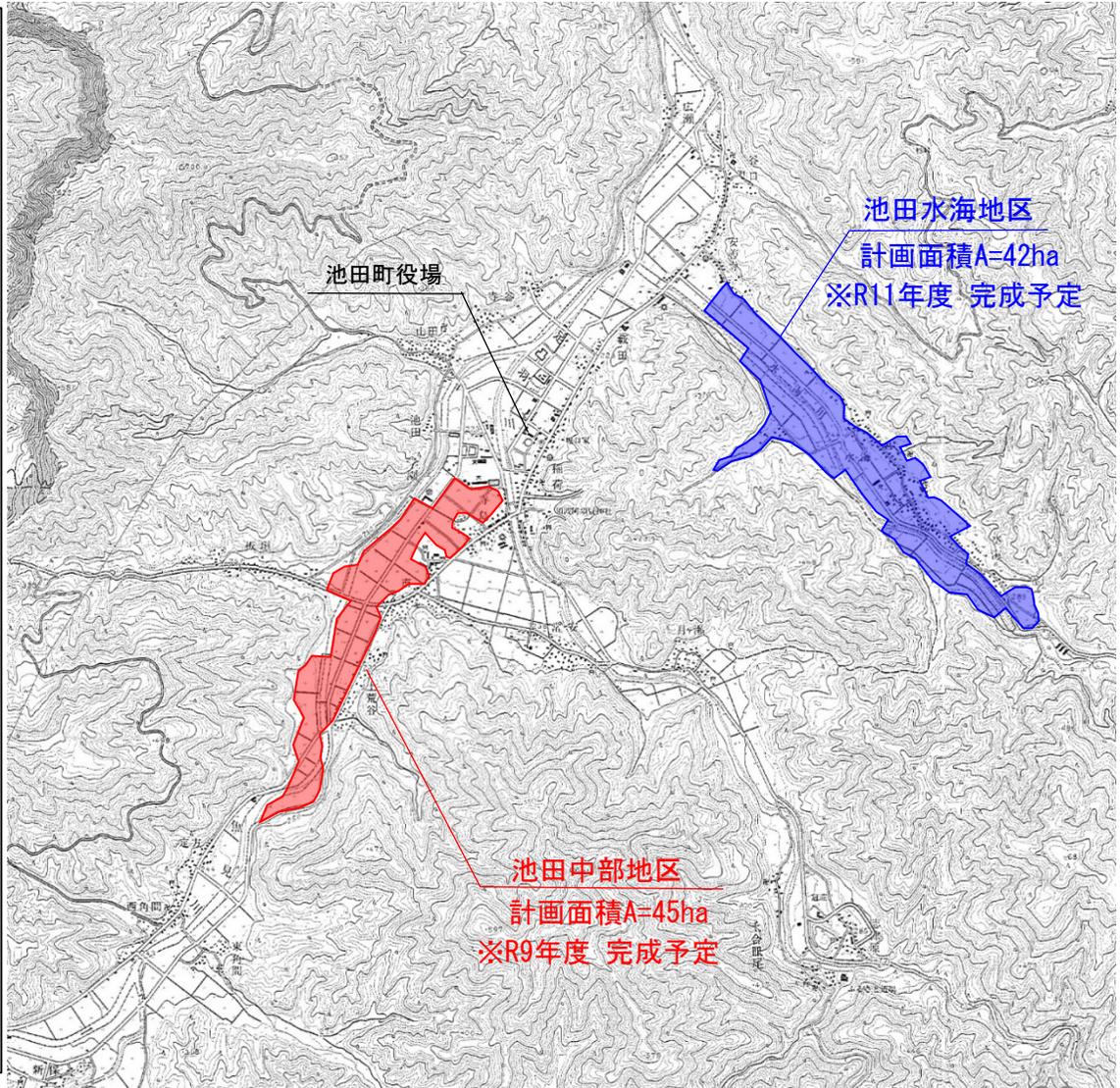


田んぼダム

概要

- ・現況
 - 一級河川足羽川の急激な水位上昇を防ぐ(遅らせる)ことを目的に、一時的に雨水を水田に貯留するために田んぼダムを実施
- ・今後の対策
 - 県営事業でほ場整備を施工しており、本事業で田んぼダム用施設の設置を検討
- ・課題
 - 所有者や耕作者における理解促進
- ・解決案
 - 事業の内容・効果を説明し理解を得る
- ・田んぼダム想定箇所
 - 池田中部地区、池田水海地区
- ・進捗状況及び計画

地区名	計画面積	R5	R6	R7以降
池田中部地区	45ha	8ha	20ha	17ha
池田水海地区	42ha			42ha



防災の手引きの周知

河川監視カメラの利用方法の周知

概要

対象地区 町内一円

・現況

近年発生した災害など防災を取り巻く状況の変化により、防災に対する住民の意識が向上しているが、防災情報の入手方法が周知されていない。

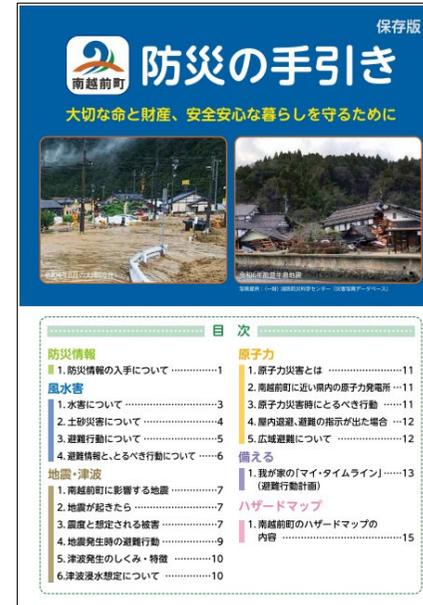
・対策

最新の防災方法の入手方法や、ハザードマップを載せた防災の手引きを更新し、全戸配布を行ったため、令和4年度の大雨で浸水被害を受けた大桐地区に、町で新たに設置した河川監視カメラの使用方法和併せて、防災出前講座にて周知していく。

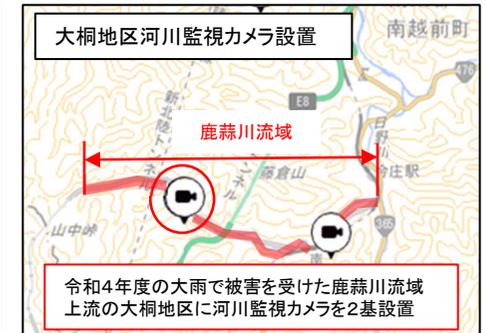
・事業年度
令和5年度～

・今後の計画

引き続き防災出前講座にて、防災情報の入手方法等の周知を行っていく。



令和6年3月に、更新した防災の手引きを全戸配布。



防災アプリから河川状況が確認可能に。



防災出前講座

町内の各地区にて、防災情報の説明会を実施。更新された防災の手引きの内容や、河川監視カメラの使用方法を周知していく。

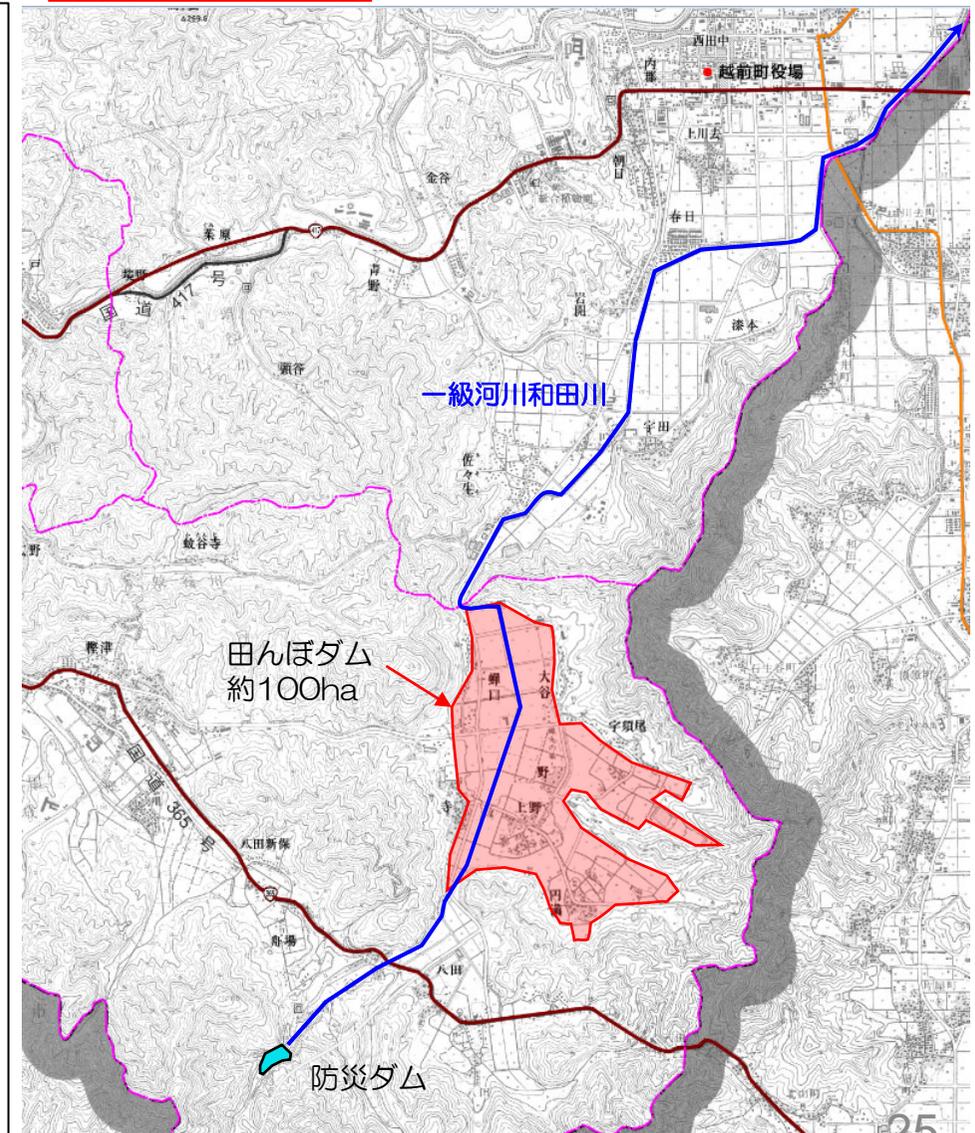
防災ダム

田んぼダム

概要

- ・現況
一級河川和田川の急激な水位上昇を防ぐ(遅らせる)ことを目的に、上流域に位置する防災ダムで洪水調整を実施
- ・今後の対策
防災ダムの貯水量や下流の水位が監視できる水管理システムが今年度末に構築されることにより、放流ゲートの操作による洪水調整や下流の水位調整など、今までよりもきめ細かい流量調整を実施する。加えて、将来的には周辺ため池の低水管理や田んぼダム事業などによる、治水対策を検討
- ・課題と解決案(田んぼダム)
所有者や耕作者における理解促進が課題であり、事業の趣旨・内容・効果を丁寧に説明し、治水対策の重要性を理解していただく
- ・洪水調整量(最大)
田んぼダム: 想定面積約100ha × 貯水深10cm=10万t
防災ダム: 有効貯水量=10万t
最大約20万tの洪水調整が可能となる。
- ・進捗状況及び計画
(田んぼダム)
令和6年度 所有者や耕作者への理解促進と要望聞き取り
令和7年度 実施箇所の決定
令和8年度以降 事業の実施
(防災ダム)
令和6年度 水管理システムの構築

構想エリア図



河川水位計・カメラ設置

概要

・場所

町内中小河川8箇所

・経緯

降雨により町内で水位の変化が大きく、地元から特に注視されている河川や冠水する恐れのある道路について、洪水になる前に速やかに避難ができるような整備が必要である。

・取り組み

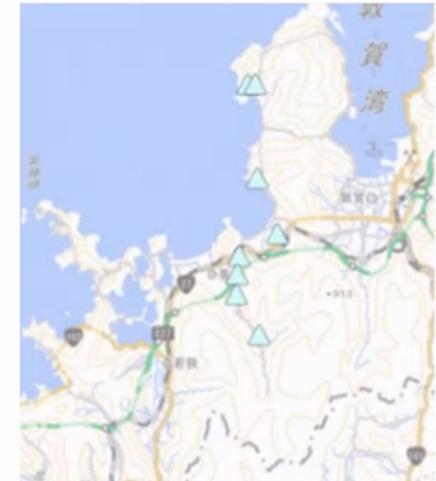
水位の変化が大きい町の中小規模の河川8箇所に水位計を設置し、水位データを閲覧できるように整備し今年度より運用を開始した。また、水位だけではなく、河川・道路の状況が分かるようにカメラを設置した。

・事業年度

河川 令和5年度設置(令和6年度運用開始)

道路 令和6年度設置(//)

- 1.阿弥陀川(丹生)
- 2.丹生大川(丹生)
- 3.越地川(菅浜)
- 4.金瀬川(佐田)
- 5.佐柿区内河川(佐柿)
- 6.麻生川支流(麻生)
- 7.五十谷川(五十谷)
- 8.奥谷川(新庄)



凡例

- 水 位:現在の水位
 - 観測開始水位:警戒レベル1
今後の気象状況に注意しましょう!
 - 危険水位:警戒レベル2
避難に時間を要する人とその支援者は、避難の準備を整えましょう!
- ~その後の警戒レベル~
- ・警戒レベル3 高齢者等避難…危険な場所から高齢者等は避難!
 - ・警戒レベル4 避難指示……危険な場所から全員避難!
 - ・警戒レベル5 緊急安全確保…すでに安全な避難ができず、命が危険な状況
警戒レベル5の発令は待つてはいけません!

新設排水路の整備

概要

- ・場所
高浜町宮崎
- ・背景
高浜町宮崎区付近は、山地と日本海に挟まれた狭隘なエリアであり、降雨による雨水流出が市街地へ到達する時間が短く、市街地内は平坦な地形であり流路勾配が微小であることから、過去に幾度となく浸水被害がある。
- ・目的
浸水エリアへの雨水排水の流入をカットし、かつ、潮位の影響が及ばない位置に排水路を新設し(二級河川子生川への直接排水)、浸水被害を軽減させる。
- ・内容
排水路新設(BOXカルバート1500×1200)L=290m
※道路拡幅(歩道新設)、踏切拡幅を同時に事業化
- ・事業スケジュール

令和元年度	設計
令和2年度	用地測量
令和3～4年度	物件補償、用地取得
令和4～7年度	工事



排水改善施設の整備

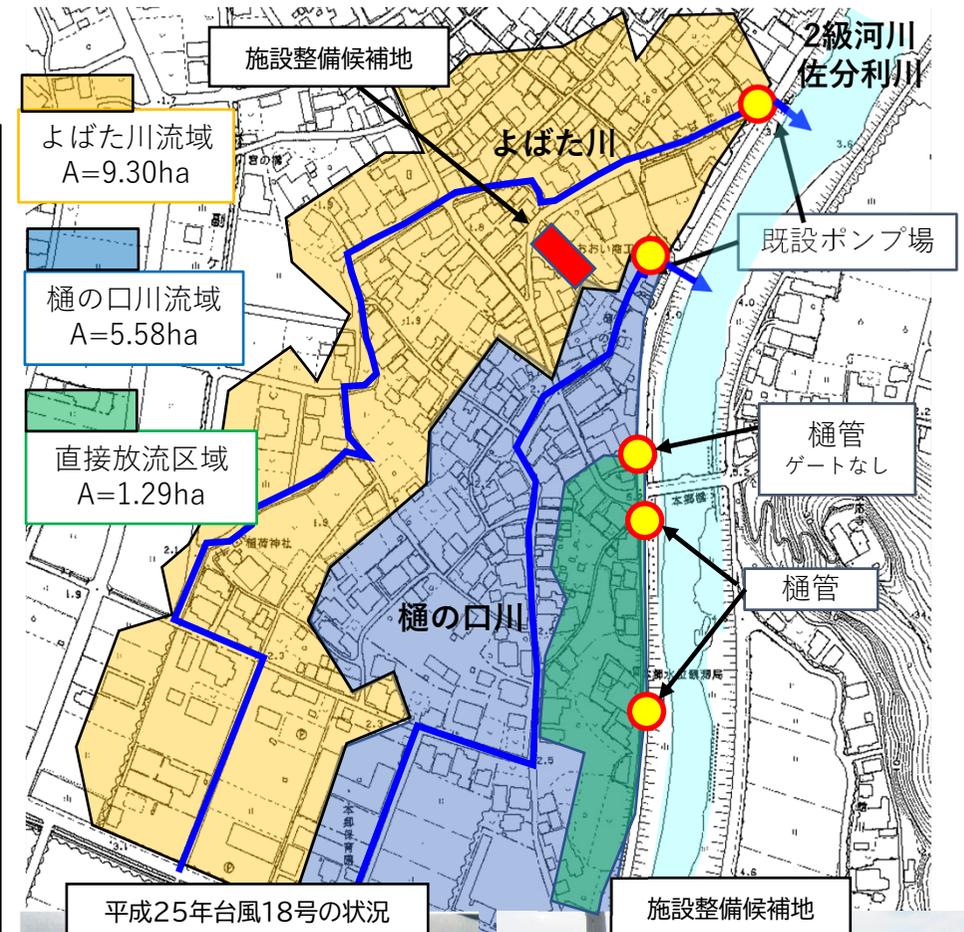
概要

・場所
おおい町 本郷 地係

・背景
本郷地区の佐分利川左岸側の地域は、台風等豪雨時に佐分利川の水位が上昇すると支流である、よばた川、樋の口川や水路が排水不良となり、周辺地域において浸水被害がたびたび発生することから、地元地域からも改善要望が上がっている。

・内容
令和5年度に旧商工会館を解体し、その跡地を施設整備の候補地として、排水改善施設を計画し、令和6年度は測量・地質調査、施設規模の検討などを行った。次年度以降は対策方法を検討しながら事業を進める。
(計画降雨確率年:10年)

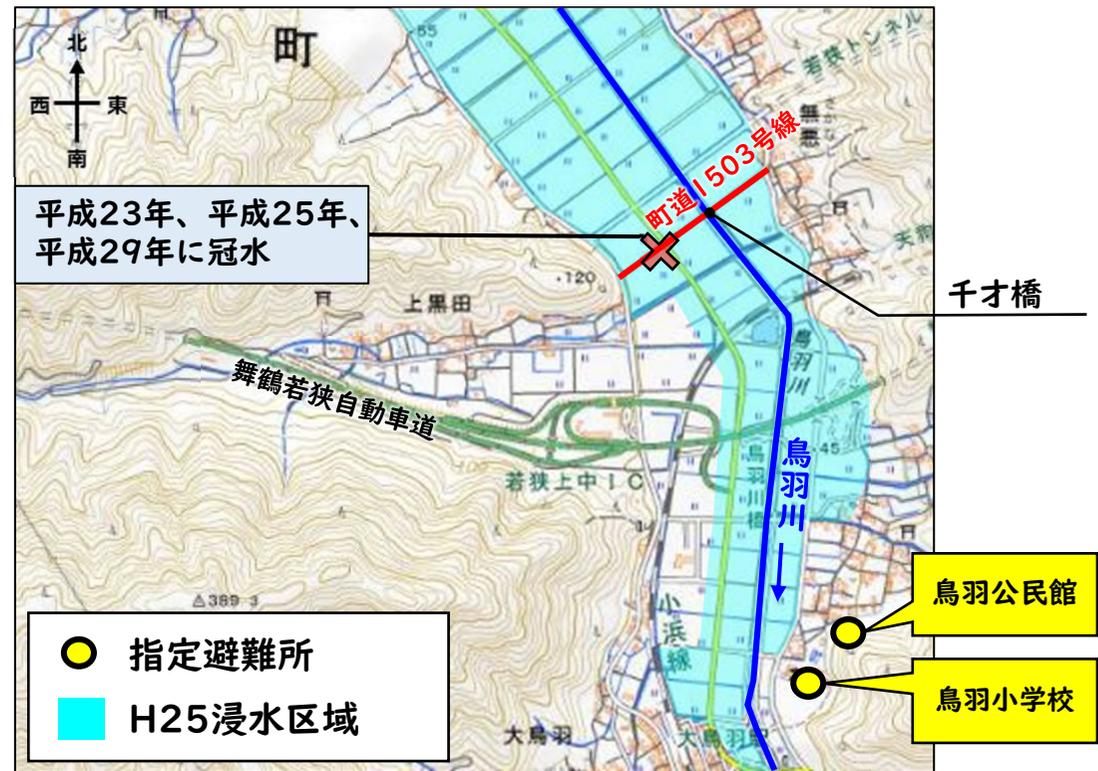
・事業年度
令和5年度 旧商工会館解体
令和6～7年度 測量・地質調査・予備設計等業務
令和8年度以降 実施設計業務
施設整備工事



避難路の確保

概要

- ・場所
町道1503号線(若狭町無悪)
- ・背景
平成23年台風2号、平成25年台風18号、平成29年台風21号において、一級河川鳥羽川の増水に伴って、同路線を含めた複数の道路で冠水が発生し、車両が各地で通行困難となった。
同路線は周辺集落から指定避難所へ至る経路のひとつになることから、円滑かつ迅速な避難のために大雨時の冠水を解消する必要がある。
- ・実施計画
道路高を平成25年台風18号における浸水位(既往最大)より上まで嵩上げする。
- ・令和6年度までの整備予定
橋梁(千才橋)の架け替え(下部工)



町道1503号線の過去の冠水状況

